令和元年度第２回いわき市総合計画審議会　議事録

１　日　時

令和元年 10 月 2 日（水）　10:15～11:30

２　場　所

市役所本庁舎３階　第３会議室

３　出席委員数

14 名

４　次第・資料

別紙のとおり

５　諮　問

総合計画の改定について

６　議　事

(1) 新たな計画の策定に係る今後の取組みとスケジュールについて（資料１）
(2) その他

７　議事内容

資料１に基づき、事務局から説明。（論点ごとの議事要旨であり、発言順ではない。ただし、事務局発言については、直前の委員の発言に対する回答。）

(1) 新たな計画の策定に係る今後の取組みとスケジュールについて（資料１）

発言者	主な発言内容
委員	【計画の構成について】 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境を作るため、「地域包括ケア」を市として推進することをまちづくりの大きな柱にすべきである。医療と介護の連携に加え、地域内で互いに助け合うことができるような関係づくりも必要であり、まずは市職員が率先して地域での声掛け活動等を行ってみるのがよいのでは。その取組みから様々な企業や団体の協力を得られるような流れになり、地域包括ケア全体の推進につながればよい。他の地域ではまだ進んでいないことなので、先行して全面的に取り組むと良いと考える。
委員	地域に分けて議論することについて賛成。合併した都市であるということもあるが、それぞれの地域が同じ目線で同じことを取り組んでも仕方がない。重複しないまちづくりを念頭に置いていく必要がある。

委員	これまで計画に基づき、様々な取組みを行ってきたが、それが成果につながっていない面もある。まちづくりは今後も続いていくものであり、すべてを網羅することは不可能なので、例えば、最初の何年間かは教育の分野に特化する、次の何年間かは経済の分野に重きを置くなどという考え方もできると思う。
委員	計画の中に攻めの部分だけではなく、守りの部分も入れていくべきであり、悪い部分が更に悪化していく場合に備えての対応も計画に盛り込むべきではないか。
	【若者の意見を取り入れることについて】
委員	若者が戻ってくるまちづくりが重要であると考える。郡山や福島に比べ、いわきに戻ってきたいと考える若者が少ないと聞くが、なぜそう考えるのか、若者の意見を聞く場を作ったらよいのではないか。
委員	そちらについては、既にセグメント懇談会を通して、高校生や大学生に意見をいただく機会を作っており、今後も引き続き進めていく予定である。 なお、会議等を行う際には、いきなりいわきの将来についての意見を求めても意見は出にくいと思うので、事前に仮説を設定し、それを検証する為にアンケート等の実施、会議の開催という流れで進めていくのがよいのではないかと考える。
委員	庁内の動きの中で若手ワーキンググループも検討するということだが、どういう結論が出たのか是非教えてほしい。
事務局	若手ワーキンググループについては、今後、庁内の若手の有志を募り、設置していく予定である。審議会への参加等を通して、意見交換などができればよいと考えている。
	【教育の重要性について】
委員	現在は子供の数が少なく、先生も不足しているため、教育が行き届かない上に部活動も制限される学校もある。クラブ活動にしても、裕福な家庭が送り迎えをして対応するような状況であるため、子供たちの教育が「平等」であるとは言えない。
委員	地域包括ケアは高齢者の問題だけではなく、子供も含めた全世代に関わることであるため、小学生くらいから地域包括ケアに関わり、医療や命について考える機会を与えられればよい。

委員	教育の問題はやはり一番重要であると感じている。現在の受験競争は本来のあるべき教育と少しずれている面があると思う。テストの点数を上げることはもちろん重要ではあるが、ヨーロッパで行っているような、「課題を設定して子供たちが自分で考えてアプローチをし、発表したものに対してフィードバックする」教育が本来あるべき姿ではないか。このような教育は、子供たちが地域の課題を考えるよい機会になり、これを小・中・高の12年間続けていけば、卒業後、市外に出たとしても、過去を振り返り、戻ってくるきっかけになるのではないか。そのような意味で、受験競争に勝つということだけではなく、いわきならではの教育をもっと進めていくべきではないかと考える。
委員	学力の低下が顕著であるため、子供に対する教育に力を入れていくべきである。また、それとともに、育てる親の側の教育も必要であると考える。
委員	現在、田人と三和で実施しているコミュニティ・スクールのように、地域において、今まで子育てをしてきたPTAの方々などの意見を反映させる新たな学校経営をしていきながら、学校が地域にオーダーを出していく交流が現実的ではないかと考えている。
委員	「自分ごと」として考えてもらうには、「参画」が必要である。例えば学校教育のカリキュラムにおいて、まちづくりへの参画が授業の単位取得となる等、教育とまちづくりをつなげる仕組みの検討も考えられる。
	【いわきの強みや弱みについて】
委員	いわきに戻ってきてもらう方法の一つとして、「いわきにいることと都会にいることの差が無い環境」を作っていく必要があるのではないか。海外との接点づくりや交通アクセス、インフラ等の面において、いわきにいるデメリットが少ない形に近づけていければ、都会にいるメリットが減ることになるので、地域に戻って来ても良いと考える人が増えるかもしれない。
委員	都会と同じ便利さを目指していく一方で、それと同時に「田舎なりの良さ」を保っていくという視点も重要であると考える。
委員	他の地域に無いいわきのメリットを共創のまちづくりにおけるひとづくりの部分に落とし込んで、これをいかに地域に浸透させていくかが重要と考える。 いわき特有の強み、機会をどうやって伸ばしていくかを考えたときに、ポイントとなるのは子供の意識である。交通の便が悪い・環境が良くないという意見はあるが、大都市と比較をすれば悪いが、比較対象を別に

	すればとても良い。そのような良い部分をどんどん取り上げて、ひとづくりをしていく上でのこれからの仕掛けの 1 つにしていけばよいのでは。 　もちろん弱みを研究することも必要だが、いわきが抱える課題の多くは全国どこの都市でも抱える課題だと思う。他都市と比べ、どこの都市にもない課題についても把握し、解決をする必要がある。
委員	SWOT の強みにもあるが、いわきは市民活動が非常に活発である。さらなる情報発信を通して、より多くの方に活動を知ってもらい、活動で得られた成果を共有していくような仕組み作りが必要ではないか。
	【共創のまちづくりについて】
委員	「まちづくり」というものは漠然としており、議論をする上で「市が考えるまちづくり」と「地域が考えるまちづくり」は合致しているのだろうかと考えることがある。各行政区で地域の特性を活かしたイベント等のまちづくりは既に行っているが、一過性のものとなってしまうことが多い。 　また、隣組ひとつとっても、昔と状況が変わり、関わりが少なくなっているため、行政区の役員は人集めに苦労している。やはりその地域に合ったまちづくりが一番重要ではないか。
委員	様々な課題に対して、行政だけでは対応できない時代となってきており、共創が必要であると認識している。現在でも、市民・企業・地域などが協力しながら色々な活動をしているが、そういった１つ１つの組織がまちづくりをしていくことで、やがてそれが１つの大きなまちづくりになるのであって、市が地域活動をフォローしていくべきではないか。
委員	「市民一人ひとりが自分ごと化しよう」という言い方だと、「では行政は何するのか？」と思われてしまう可能性があるため、行政と市民が一緒になって明日の未来を創っていくということが伝わるように言葉を少し変えたほうがよいのでは。最終目標は大人も子供も郷土愛を持っていわきを大好きになることである。
	【伝わる計画とすることの重要性について】
委員	市民一人ひとりがまちづくりを「自分ごと化」するとあるが、計画は伝わるからこそ自分ごと化できると思うので、分かりやすい計画とすることが必要である。その中でも特に重要なのは、将来を担う「子供たち」に伝わる計画であることであり、いわき市が考える将来のゴールイメージをどのように伝えていくべきかを検討する必要がある。例えば、アニメ等で伝える方法も考えられる。

委員	視覚に訴えることは非常に重要であるため、いわきの現状や市内の方々の活動などを紹介するDVDを作ってみてはどうか。 子供の頃からいわきについて学ぶことで、将来市外に出たとしても、戻ってきてもらえるような気持ちになるのではないか。学校で子供たちにそのDVDを見てもらうだけではなく、地域の方々に見てもらうのもよいと思う。
委員	教材を活かすには、教員の力も関係する。生徒に問題意識をもってもらえるように、DVDを見る前に内容について教育をしておくということも必要である。
委員	総合的な学習や課題研究の時間のなかで、いわき市の計画や抱える課題について触れ、学校ごとにテーマを投げかけて、課題研究など進めていくのも一つの方法ではないか。
	【今後について】
委員	今後の議論について、何を議論すべきなのかを明確にしたい。理念と経営指針については、反対のしようがないのではないか。
委員	理念や経営指針は最終形ではなく、勿論修正が加わる可能性がある。今後は、委員それぞれの立場から自身が関わるテーマについての意見を出していただく。最終的に審議会としてまとまった成果物を提出することとなる。

(2) その他

発言者	主な発言内容
事務局	次回の会議日程に係るアンケートについて、現時点のご都合を記載いただきたい。詳細については、委員のご都合を踏まえた上で調整し、改めて事務局より連絡をさせていただく。

以上

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名押印する。

令和　1　年　10　月　2　日

議事録署名人　小沼郁夫

令和　1　年　12　月　19　日

議事録署名人　木村守和